

平成31年度 学校評価シート



栃木県立日光明峰高等学校

◆学校経営方針

スローガン	爽やかで勢いのある学校、地域に愛され信頼される学校（を目指して）
生徒指標	「自主自律」「努力創造」「敬愛奉仕」
学校教育目標	○夢を持ち、将来の自己実現に向けて意欲的に学び続けることができる人間の育成
	○正義感・責任感・規範意識を身に付けるとともに、自らを律し主体的に判断、行動できる人間の育成
	○常に向上心を持ち、努力を惜しまず物事に取り組むことができる人間の育成
	○文化や伝統の継承に努めるとともに、新たな価値の創造をめざす人間の育成
	○他者を尊重しながら、よりよい人間関係を築いていくことができる人間の育成
	○社会に貢献しようとする意欲のもと、勤労・奉仕活動に協働して取り組むことができる人間の育成
重点目標	○安全で安心して学べる、いじめのない学習・生活環境を整える。《居場所》
	○様々な活動において学級や学年、学校の一員としての役割を自覚させ、自発的・自主的な参加を促す。《役割》
	○夢や目標の実現に向け努力する生徒を、全力でサポートする。《自己実現》

◆学校基本情報

課程学科	全日制普通科
クラス	1・2年2クラス、3年4クラス
在籍生徒	男64名、女53名、計117名
所在地	日光市久次良町1 0 4 番地
連絡先	電話 0288-53-0264
	FAX 0288-53-2301
ホームページ	http://www.tochigi-edu.ed.jp/nikkomeiho/nc2/

◆自己評価の指針

A	達成（80%以上）
B	概ね達成（60%以上）
C	変化の兆し（40%以上）
D	不十分（40%割未満）

◆自己評価及び学校評価アンケート

<各部>

分掌	年度目標	自己評価	次年度への課題・改善策
教務部	・学校行事、入試業務の計画と正確かつ円滑な遂行	B	概ね順調だったが、いくつかの行事で遅れが生じた。次年度もその部分を改善し努力していきたい。
	・新教育課程に向けての準備、検討	B	方向性の確認はできているので、来年度完成に向けて進めていく。
生活部	・生徒の個性の伸長を図りながら、社会的な資質や能力・態度の育成	B	主体的に課題を発見し解決に導く力、自己指導能力の育成を目指す指導を継続したい。
	・将来において社会的に自己実現できるような資質・態度の形成	B	自己の実現に向けて努力す重要性を考えさせ、実行する主体性を身に付けさせる指導の徹底を図りたい。
	・基本的な生活習慣を身に付けさせ、公正には判断し行動できる人間の育成	B	「礼・挨拶・清掃・身だしなみ」指導等、生活指導全般の継続と徹底を次年度も継続的に図りたい。
学習部	・基礎学力の向上のため、学習に主体的・意欲的に取り組む態度の育成	B	授業を通して態度の育成を図るため、主体的・対話的な授業の実践を進めていく。
	・3年間を通してさまざまな人権に触れる機会の設定	A	係と学年が連携し、早期から計画を立てて進めていく。
	・図書、視聴覚教材の充実と授業での活用	B	次年度も教科の意見を取り入れながら、授業での活用ができるよう図書館運営を行う。
進路部	・進路学習の効果を高めるための、進路学習実施時期の研究・検討	C	1年間をかけて行事の再編、移動、削減について検討を進めた。来年度はそれを実施する。
特活部	・自主的、実践的な態度や自己を生かす態度の育成	B	諸活動において、担当者を中心に目的意識を持たせて実施することができた。計画の段階から生徒が自主的・実践的に行えるよう指導をしていきたい。
	・部活動の充実と活性化のために、施設設備の充実を図り、指導者の養成に努める。	B	各部活動において、中学校との合同練習や強化合宿などを実施した。専門的な知識や技術を向上できるよう研修会等にも参加する必要がある。
	・学校生活の充実と発展に資するための体験的な学校行事の企画、立案、運営を図る。	A	担当者を中心に充実した行事を行えた。特に文化祭は、初めて一般公開を実施し、生徒の自己肯定感や自己有用感の向上にも繋がった。
保健部	・専門医と連携し、定期健康診断の指導、学校における健康診断を行う。	C	腎臓検診（尿検査）の回収率が悪い。検査の目的を生徒に周知し、意識を高めたい。
	・校舎内外の危機管理について周知徹底させ、安全整備に努める。	B	各係、担当ごとに危機管理マニュアル、学校安全計画を見直し、改訂を行う。
	・体育スポーツ、学校行事における健康管理と安全指導の強化に努める。	B	持続歩大会のゴール前コース変更は、安全面へ配慮した変更で良かった。
渉外部	・本校の教育の充実に資するため、地域および関係諸団体との連携強化に努める。	B	持続歩大会、体育祭、明峰祭、上都賀バレーで保護者協力をいただいた。総会はメディアⅠで実施した。学校要覧や学事録に誤りが多かったので来年度はチェックを徹底する。
情報部	・情報機器の充実および管理の徹底	B	使用簿への記入の徹底を図り、どの機材がどこで使われているかをしっかり把握し、厳正な管理を行っていく。
	・情報処理の厳正化および情報モラルの向上	B	情報の授業だけでなく学校教育のすべての場面において、すべての教員が生徒の情報モラルを高める指導を行っていく、また情報の取扱について、厳正な管理を行っていく。
	・情報発信の活性化	B	H P 更新を積極的行っていく。

<各学年・教科>

分掌	年度目標	自己評価	次年度への課題・改善策
3 学年	・社会への適応を意識した基本的な生活習慣を確立する。	B	進路決定の前線でぶれない一貫性のある指導を心がける。
	・自身を見つめ直す中で自己有用感を高めさせ、目標の進路を決定する。	B	進路決定後、生徒を自己研鑽に努めさせる企画の立案、実施。
2 学年	・基本的な生活習慣を身につけようとする。	B	おおむねよくできた。体調や私物の管理をより徹底し、自立心を高める。
	・規律と責任を重んじた、集団の中で役割を見つけ協調しながら全うしようとする。	A	修学旅行、明峰祭とよく努めた。3学年としての自覚を持って学校生活全般に取り組む。
	・進路の意識を高め、進路に必要な学力を身につけようとする。	B	進路の方向性を全員決定したかったが、未定の生徒がいる。決定し、進路実現に向ける。
1 学年	・高校生活に適應する基本的な生活習慣の育成	B	欠席、遅刻、早退の多い生徒に対する早期の対応の徹底を図る。
	・学びに向かう態度・意欲の向上	B	進路意識の高揚と授業態度だけでなく課題・提出物の管理を徹底し、態度・意欲の向上を図る。
	・集団生活における仲間意識の涵養と規律と責任を重んずる態度の育成	C	仲間を認め合う心の育成を図る。礼儀、責任感をもった行動・発言を生徒自身が自覚する指導を行っていく。
国語科	・「話す」「聞く」「書く」「読む」力を育成のために、わかりやすい授業を展開する。	A	次年度も講義型の授業だけでなく、対話的・主体的な授業により「話す」「聞く」力の向上をも図る。
	・知見を広め、幅広い感性を養うために、読書を奨励する。	B	図書室や資料を随時利用し、幅広く書に触れた。図書室での活動も取り入れていく。
地歴公民科	・歴史的事象や現代社会における事象の興味、関心を高める。	B	アクティブラーニングの視点から次年度も授業改善を図り、興味関心を高める授業の展開をしていく。
	・基礎的な知識の理解を高めていく。	B	アウトプット型の学習や復習プリントの活用により理解を深めていきたい。
数学科	・授業と演習を通して、生徒の内容理解と計算力の向上に努める。	B	生徒それぞれの理解度をしっかりと把握し、理解力の向上・また適切な評価が出来るように、机間指導や指導方法を工夫していく。
	・事象を数学的に考察し表現する能力を高め、数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。	B	アクティブラーニングの視点を取り入れ、生徒が自主的・意欲的に取り組めるような授業を心掛けていく。
理科	・生徒の進路・実態に合わせた授業内容の選定と展開	B	単に暗記ではなく、主体的に思考する態度を高めらるよう、授業展開や教材の工夫に取り組んでいく。
	・フィールドを活かした自然探究活動の計画・実施	B	地域の身近な自然を理理的な視点から捉え、自然科学に対する興味関心を高め、生徒が意欲的に学ぶ態度の向上に努めたい。
英語科	・近隣の小中高にむけた公開授業や研究授業を積極的に実施し、教員の授業力向上を図る。	C	検討を重ねてきたが、他の業務やスケジュールの都合上実施に至らなかった。しかしながら、それぞれが外部の研修に参加するなど、積極的に自己研鑽に努められた。次年度は早い段階で実施の時期と目的を明確にし、本校を中心とした日光市の小中高接続を図りたい。
	・生徒の「自らの考えを伝え合う力（聞く力・話す力（やりとり））」の向上のための授業改善を徹底する。	A	目的達成のための言語活動の充実、パフォーマンステストの実施を達成できた。その際、教材の共有や評価規準の共有を図り、Can-doリストを活用、アンケートでふりかえることができた。生徒の中にも変化が見られたことはよかった。
保健体育科	・安全面に配慮した授業展開	A	毎時間の事前の用具、施設の点検を継続的に行うとともに、生徒の体調や体力に応じた適切な運動量や休憩等を取り入れる。
	・言語活動を取り入れた主体的な授業を展開する。	B	自己や他者の課題を解決するための活動を積極的に取り入れることができた。ワークシートや振り返りの活動を効果的に取り入れていきたい。
芸術科	・自分なりの表現や工夫ができるようになる。	B	自分なりの表現ができるようになってきている。今後は自主的に表現方法を見つけられるように指導していきたい。
	・体験的学習を通して、知識・感受性を高める。	B	実習の時間を充実させることができたが、知識面では不十分な面があった。今後も引き続き内容の改善充実を図りたい。
家庭科	・家庭生活において必要となる基礎・基本的な知識と技術を習得する。	B	プリントの他にICT教材やワーク等も活用し、興味関心の意識向上した。技術の習得に関しては、個人差が大きいので今後もTTで手分けして丁寧に対応していく。
	・日本文化や郷土文化について学習し、文化を伝承していく能力を養う。	B	外部の講師を招いたり、校外に出たりと様々な授業展開し生徒も意欲的に取り組む姿が多く見られた。来年度も工夫した授業展開を目指す。
商業科	・生徒個々に対応した学習指導・技術指導の充実により学習意欲の向上を図る	B	次年度もプリント等を効果的に活用することで、理解も意欲の向上を図っていきたい。
	・進路実現に向けた資格取得指導の徹底	B	資格取得の意義を理解させることで、各自の目標を明確に設定させ指導を図りたい。
情報科	・ネットトラブルの危険性の理解のため、情報モラル・セキュリティについて細かく指導する。	B	今年度は情報モラル研修を行うことが出来なかった、次年度は研修係と相談し行っていきたい。
	・パソコンの操作技術の向上のため、演習を積極的行う。	B	検定試験においては高い合格率を修めることが出来た。次年度は効率も考え演習を行わせていきたい。